



京ヶ峰の四季

第53号

2016年新春号



平成28年元旦 幸田町八百富神社にて

患者さんの幸せのために何ができ、何が必要かを
考え抜き、実行していくことに挑戦していきたい。

当院もまた、「挑戦」をモットーに新たな年を拓いてまいります。

平成28年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましても良いお正月を迎えられたことと思います。当院では、本年も恒例になっている元旦の五社巡りの行事から始まりました。今年も健康に気を付けて、皆で元気に何事にも前向きに取り組みたいと思います。本年もよろしく申し上げます。

振り返りますと昨年もさまざまな出来事があり、本年も国内外とも大変な年となりそうな予感が抑えきれません。医療分野では来年度の診療報酬改定は全体として、マイナスとの話も出ていたようですが、これはとんでもない話であり、到底受け入れられるものではありません。特に精神科では相当厳しいものになりそうで、これでは精神保健医療福祉分野の改善も望めません。

さて、安倍総理が新年の記者会見を行いました。ここで印象的だったのは会見の中で安倍さんが「挑戦」という言葉を25回も口にしたことです。翻って当院は父が創立して78年目、私が引き継いで58年となり、京ヶ峰に移って48年目になります。この間、精神医療は大きく変わりましたが、患者さんの幸せを支援していくという目的は変わっていませんし、変わってはならないと言えます。したがって当院における「挑戦」とは、当院に課せられた使命や目的を今一度思い起こし、患者さんの幸せのために何ができるかを改めて考え、実行していくことではないかと考えます。

大変な時代が予想される中、患者さんの幸せのためにという本来の目的を達成していくため、新たな挑戦をしていくという覚悟で臨む気持ちです。挑戦を続けることは決してやさしいことではなく、それを達成していくには強い気力が必要ですが、同時に私たちがモットーとしてきた「明るく、仲良く、元気よく」をも忘れることなく、患者さんのための挑戦を続け、皆で気を引き締めてまいりたいと考えております。

本年も皆さんと頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(平成28年 新年交礼会 院長挨拶 抜粋)



京ヶ峰岡田病院
院長 岡田庸男

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために
～ For the Patients ～



精神保健医療福祉情報

第40回日本精神科看護学術集会in福島 平成27年6月18日～20日

看護研究発表



あなたは、患者の足をしっかり見ていますか ～フットケアによる患者とのかかわりを通してのスタッフの意識変化～

昨年、福島で開催された全国学術集会にて、
当院より研究発表をいたしました。
研究発表を通じて得た経験をまとめましたので、
広報誌にて紹介いたします。



『初心忘るべからず』

看護師として学び始めた頃の謙虚で真剣な気持ちを再び 看護部 中山 三佳

今回看護研究で取り組んだテーマは、私が精神科に勤務して
からずっと気になっていたことでした。いざ患者さまの足の現実を自
分の目を見た時の衝撃と、込み上げてきた感情を一言で言うと
『恥』です。今まで看護師として、いったい何を見てきたんだろう。そ
んな恥づかしい気持ちになったのです。「あなたは、患者の足をしっ
かり見ていますか」この問いは、自分自身にも投げかけられたもので
もあったのです。

“初心”とは「段階ごとに経験する芸の未熟さ」を意味し、これまで
経験したことがないことに対して、自分の未熟さを受け入れながら新
しいことに挑戦し精進していく姿勢を忘れるな、ということだそうです。
私が抱いた『恥』は、まさしく自分の看護の未熟さを受け入れること
であり、この看護研究は新たな挑戦と精進の場となったといえます。
奇しくも私は、看護研究をまとめた2年の間に数回の入院をし、ベッ
ド上でのフットケアを経験しました。お風呂に入っているような爽快
感にリラックスでき、足を洗ってもらいながら看護師とする何気ない
会話で不安な気持ちが軽くなり、終わった時には笑顔でお礼を
言っていました。もしかしたらこの時の看護師は、業務の一環として
私にケアしてくれたのかもしれませんが、私から出た「ありがと
う」「気持ちよかったです」この言葉は、嘘のない心から出た言葉で
す。「患者さまはこんな気持ちになるんだ」と実感した瞬間でした。同
時に看護師は、患者さまのこのような言葉に嬉しさや達成感を感じ
ているのだと。入院生活は、経験してみないと分かり得ない不自由と
不安の連続です。そんな中、家族はともあれ24時間一番近くに居る
看護師の存在や言葉がとても救いになります。どんな形であれ『患
者に寄り添う』ことが力になる。これは、精神科に入院している患者さ
まにとっても同じだと、自分が経験して初めてわかりました。

「感性を磨きなさい」
看護学生の時に先生に言われた忘れられない言葉です。看護の
原点は「感じる心、きく心、みる心」で、知識と経験などの蓄積とともに
物事を感じる力が大切だといわれます。看護研究を通して何が見
え何を感じたか、そして自分の思いとしっかり向き合い深く考え抜い
たこと、その思いをどのように発表するかを考え発信できたこと。これ
が感性を磨くという意味だったのかもしれませんが。であるならば、この
研究に携わった2年間は、自分の入院体験も含めて自分の感性を
磨きに磨き抜いた貴重な経験だったといえます。特に、患者さまの心
と正面から向き合う精神科看護において、私たち看護師の心の余
裕とそれが生み出す豊かな感性は重要です。私たち看護師は、毎
日忙しい業務に追われる中で、大切な心を見失ってははいないでし
ょうか。患者さまによりよい看護を提供するために、看護研究はその手
助けになる一つの手段であると思いました。

みなさん、まずは受け持ち患者
さまの足をしっかり見てみてくださ
い。そして、あなたは何を感じるで
しょうか。何かを感じても、もし何も
感じなくても、その自分の心に素直
に向き合ってみてください。きっと
何かが変わるはずですよ。

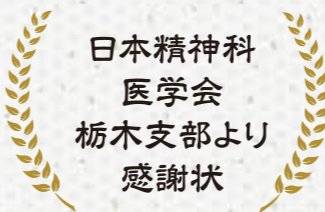
今回、看護研究をまとめるにあ
たりご協力、ご指導いただいた
方々、そしてこの看護研究を評価
していただけたことに心から感謝
いたします。



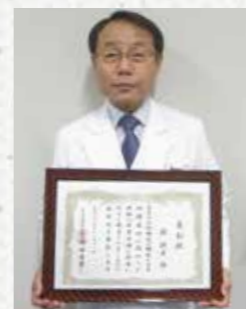
病院TOPICS

職員功労者表彰

当院の職員が院外の団体・企業より表彰を受けましたので、院内表彰するとともに、広報誌にてお知らせいたします。



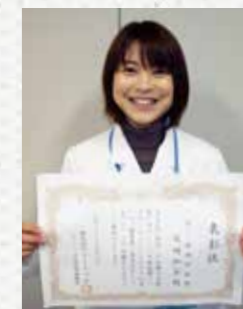
薬検部 関 壮史



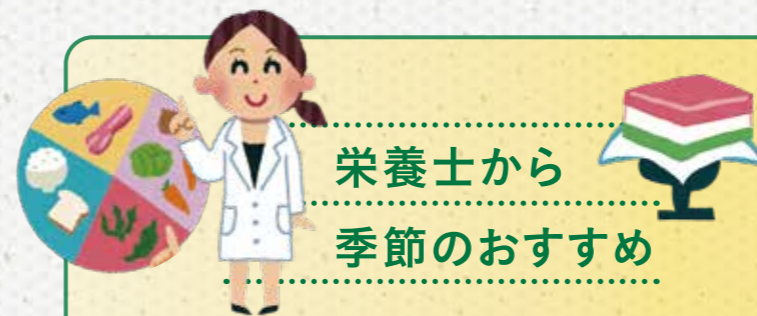
この度は職員功労賞の表彰をしていただき、心より嬉しく思
いますと共に恐縮しております。私が平成27年7月17・18日に栃
木県にて開催されました日本精神科医学会に参加させてい
ただき、講演を聴講していたところ、右隣に座られていた男性
が癲癇の発作を起こし、頭を私に向けて倒れて来ました。突
然の出来事に驚きましたが、私は彼の体を支えながら横たえ
ました。そして少し回復した後に脈を取ったところ、脈拍が弱
かったので救急車を呼ぶことを提言し、その運びとなりました。
また、医師の方と共に搬入先の病院に付き添い、事情の説明
を行いました。その方の奥様の話では、以前から心不全の症
状があり、最近は重くなってきた為に近々ペースメーカーを設
置する予定だったとのことでした。その後の経過は良いとのこ
とで、私も一安心しております。日本精神科医学会栃木県支
部からも感謝状をいただき、身にあまる光栄でございます。この
ような出来事が病院と他地区の精神科医学会との新たな繋が
りの一つとなって行けば幸いです。



栄養部 尾崎 加奈



「α米粥をおいしく召し上がっていただくには、どうしたらよいか。」と
いう問いから、このレシピは生まれました。給食施設では、非常食を
備蓄しておかなければなりません。当院でもご飯やおかずが備蓄
されています。その中には様々な形態の食事に対応するために、α
米粥といって水や湯を注ぐだけで食べることができる粥も用意して
います。便利なα米粥ですが、普通の粥とは食感や風味が異なり、
通常時には人によっては抵抗がある場合があります。非常食の
入れ替え時期になり、この粥を利用していかねばならい
ませんでした。雑炊にしたり、牛乳寒天に混ぜてみたりと試作を重ねた結果、
小豆と相性が良いことが分かり、「α米粥小豆寒天」ができました。
そして、実際に患者さまに提供することができました。その後、厨房機
器メーカーである株式会社アーテックにレシピコンテストの開催の
案内をいただき、部長の勧めで応募をしました。優秀賞5作品の
中の1つに選んでいただき、大変驚きましたが、工夫を認めてい
ただけたことをうれしく思いました。これからも患者さまに
おいしい食事を提供できるよう、栄養部全体で努力をしてい
きたいです。



栄養士から 季節のおすすめ

1月は行く、2月は逃げる、3月は去る—この3ヶ月はやるこ
とが多くすぐに過ぎていくことから、いつからか言われる
ようになりました。何かと慌ただしい時期ですが、少しずつ
暖かくなるので心にゆとりを持って過ごしたいですね。今
回はだんだんと春めいてくる3月の行事、桃の節句につい
て少し調べてみました。
もともとは上巳(じょうみ・じょうし)の節句と言います。上
巳とは3月上旬の巳の日のことで、その日に紙や草などで
作った人形(ひとがた)で体をなでて穢れを移し、川や海に

流して厄祓いをするという神事でした。その人形と、当時貴
族の子ども達の間で流行していた雛(ひいな)遊びが合わ
さり、ひな人形の原型と言われる「流しびな」の風習が生ま
れました。より立派なものが作られるようになると、流すの
をやめて飾るようになったとのこと。
また、桃の節句と呼ばれるようになったのは、桃の花が咲く
時期と重なったことや、古事記でイザナギノミコトが追手の
化け物たちに桃を投げつけ身を守ったことで魔除けになる
と考えられたからです。
今年は、エビ(長寿)、れんこん(先の見通しがきく)、豆(健
康でまめに働ける)など縁起
のよい具がのったちらし寿司
やハマグリのお吸い物でお祝
いしながら、そのルーツに思
いを馳せるのも良いですね。



行事報告



第12回愛知県精神障害者 スポーツ(ソフトバレーボール)大会 平成27年10月22日(木)

スカイホール豊田にて開催されました。当院から12名の方が参加し、結果は3位入賞でした。2位の桶狭間病院との試合では同点を繰り返す接戦でした。



第31回 希望会ゲートボール大会 平成27年11月6日(金)

名古屋市・庄内緑地公園ゲートボール場にて開催。当院からは2チーム11名の方が参加しました。結果は、2チームとも1勝1敗で決勝リーグに進みませんでした。強豪チームに対して最後まで粘り強く戦いました。



文化展 平成27年11月9日(月)～13日(金)

職員・患者さんの趣味やクラフトの作品展を院内で開催しました。150点ほどが出品され、多くの方にご鑑賞いただきました。



開院記念スポーツ大会 平成27年11月10日(火)・11日(水)

開院記念行事として、ビーチバレーボール大会とスティックカーリング大会を開催しました。スティックカーリングでは患者さんチームの圧勝でした。



ダイケアー泊旅行 平成27年11月18日(水)～19日(木)

蒲部の竹島周辺を観光した後に、西浦温泉のホテルに泊まりました。夕食に1人一杯の大きな蟹が付き、とても満足しました。



希望展 平成27年11月25日(水)～29日(日)

名古屋市・愛知県芸術文化センターにて開催。県内から21施設・222点の作品が集まり、当院からも18点出展しました。また11月26日には当院よりバスで見学に行きました。



愛知県ダイケア実施施設交流会 平成27年11月28日(土)

当院が主催当番となり「地域との関わり～地元小学校、中学校との交流を通して～」をテーマに話し合いました。県内から20施設(40名)の参加がありました。



坂崎学区文化芸能祭 平成27年11月29日(日)

坂崎小学校にて開催。当院からは手芸や絵画、貼り絵など約20点を出品しました。



クリスマス演奏会 平成27年12月22日(火)

院内京ヶ峰ホールにて開催。約250名が参加し、多くの病棟が演目を披露しました。途中でサンタからのプレゼントもあり、少し早いクリスマス気分を味わいました。



餅つき 平成27年12月28日(月)

迎春用のお餅を、患者さん、院長、院内保育園のちびっ子たちや職員、みんなで一所懸命パタンパタンつきました。今年は16日ぐらい頑張りましたよ。



五社巡り 平成28年1月1日(祝)

元旦恒例、今年も午前6時から患者さん約30名と職員約45名で幸田町内の五つの社を巡りました。とても暖かな元日で、一年の良いスタートが切れました。

行事食



南病棟 行事食 平成27年10月30日(金)

海鮮丼、茶碗蒸し、清汁、クリームあんみつ

葵3病棟 行事食 平成27年12月15日(火)

五目飯、刺身、茶碗蒸し、和風サラダ、ぜんざい

今号のおすすめ

音楽活動



薬検部の兵藤です。現在69歳、京ヶ峰岡田病院にお世話になって8年目になります。私のおすすめは音楽です。音楽と言っても、「聴く」だけではありません。「演奏」を楽しんでいます。楽器は主にギターなどの弦楽器。学生時代はギター・マンドリンクラブ、社会人になってからは、ハワイアンバンドですと演奏活動をしてきました。

最近では、自分で演奏を楽しむだけでなく、「教える」こともしています。3年前から菅生神社友の会ギター教室を開設し、4名の生徒さんに教え始めました。現在は、(岡崎市)本町3丁目の町内活動の一環で、自宅と町内の清明神社の社務所で月に2回ほど、ギター・ウクレレ教室として指導を行っています。生徒さんは、ギターが2名、ウクレレが2名で、みんな初心者ですが、とても楽しんで教えています。

もちろん、現在も演奏活動は続けています。去年は、菅生神社のフリーマーケットで演奏を行いました。また、菅生神社友の会の忘年会と、町内の忘年会でも演奏する機会をいただきました。

今後も精力的に活動していきますよ。将来的には、連尺学区の老人保健施設でのギター単独演奏会を企画しています。本当は「単独演奏会」ではなく「合奏」もしたいのですが、残念ながらそれにはメンバーが足りない状況です。経験・未経験は問いませんので、皆さんも一緒に音楽をエンジョイしてみませんか？

※次号は、看護部・葵3病棟の滝尾はる美さんが担当します。よろしくをお願いします。

薬検部 兵藤 渉



編集後記

今年は雪が降らずスキー場の経営が困難、菜の花や梅が満開など各地で暖冬の影響が出ているのを耳にします。暖かさは何となく感じていましたが、先日、自宅の庭にユキヤナギが一輪咲いているのを見かけ、改めて暖冬の影響を実感しました。この一輪はどうなるのだろう…見守ってみようかなと思います。

広報委員 辻川

